

岐阜県立可児工業高等学校

学 校 長 西垣 幸司

学校住所 可児市中恵土 2358-1 電話 0574-62-1185

- 1 **会議の名称** 平成30年度可児工業高等学校 学校評議員会 (第2回)
- 2 **会議の構成**

| | | |
|-------|---------|---------------------|
| 委 員 | 大杉 守平 様 | 中恵土自治会連合会会長 |
| | 亀谷 実記 様 | 元PTA役員 |
| | 河村 共久 様 | 下恵土自治連合会会長 |
| | 佐合 英巳 様 | 元PTA役員 |
| | 若尾 真理 様 | 可児市立図書館長 (委員名 五十音順) |
| 学 校 側 | 西垣 幸司 | 校長 |
| | 各務 友浩 | 教頭 |
| | 長尾 久志 | 事務長 |
| | 水野 茂之 | 教諭 (教務主任) |
| | 柴田 純孝 | 教諭 (生徒指導部長) |
| | 加藤 正康 | 教諭 (特活部長) |
| | 山田富美義 | 教諭 (進路指導部長) |
| | 安藤 達矢 | 教諭 (工業部長) |
- 3 **会議の目的** 岐阜県立可児工業高等学校の教育方針・重点及び学校課題を説明し、幅広い意見・提言を受け本校教育の改善・充実に資するとともに、開かれた魅力ある学校づくりを推進する。
- 4 **会議の開催** 平成31年1月30日 (水) 13:30~16:00 可児工業高等学校校長室
委員5名、学校側8名、計13名が出席
- 5 **会議の概要**
 - (1) 校長あいさつ
 - (2) 校内見学
授業参観 英語
マイコンカーラリー実演
電気システム科課題研究
ものづくり体験
 - (3) 各分掌より今年度の取組と成果について説明
 - (4) 意見交流 (本校教育への提言・意見等)
 - (5) お礼の言葉
- 6 **会議の内容**
 - (1) 校長あいさつ
教育活動についてご理解いただき、工業の専門高校としての教育のありようについて率直な感想やご意見をいただきたい。
社会の多様化や少子高齢化でこれまでの教育活動をそのまま引き継いでいくことでは立ち行かないので、平成34年度から高校では新学習指導要領が運用される。それに向けてカリキュラムや学校行事の見直しを進めている。また、県教育委員会では第3次教育ビジョンが平成31年4月から始まることから各学校がより魅力のある学校として生き残れるように学校運営を検討している。少子化がすごいスピードで進んでおり、県内5地区の中では

飛騨と東濃の減少割合が非常に高い、可茂地区について向こう 10 年ぐらいは減少見込みが少ないが 5 年後 10 年後このまま存続できるか非常に難しいので、今後学校の統廃合について検討されている。

一方生徒たちは昨年以上に、いろんな活動にかんばってくれ全国大会や東海大会において輝かしい成績を残してくれております。そんな中で働き方改革が進んでいない現状もあります。

いろんな立場の委員の皆さまから改善方法のヒントをお教え願いたい。

地域から期待される学校づくりを進めていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

(2) 本年度の取り組みと課題

○教務

- ・本年度力を入れたことに情報発信があり、ホームページやデジタルサイネージ等で情報を発信している。
- ・入学動機調査結果において、学習に対する興味が増えている。また、学校に対する保護者理解がされている内容の割合が増えている。
- ・中学生対象のオープンキャンパスの参加者は、昨年に比べ 1 割以上増加した。本校へ興味を持ってくれた生徒増えていることから情報発信の成果が上がっている。
- ・オーストラリアのクリーブランド地区高校が本校に来校し国際交流を授業体験、ものづくり体験を実施した。本校生徒にとって有意義な体験となり今後も継続していきたい。来年度は、本校の生徒がオーストラリアへ行く交流する予定です。

○生徒指導

- ・時間とルールを守ることは、職業教育で一番大切であるので本年度も主に取り組みました。
- ・昨年度に引き続き遅刻が増加している。皆勤者も多くほとんどの生徒は遅刻をしない。一部の多遅刻生徒の現状がある。登校時の巡回や声掛けはできているが、家庭との連携の工夫と多遅刻生徒への個別指導に対して力を入れていきたい。多遅刻生徒が多くなった理由として、不登校、指導が入らない生徒、怠けで来れない生徒もいるので学科の力をいれながら職業教育の在り方を徹底していきたい。
- ・MSリーダー活動の推進として、毎朝の剣道部生徒を中心にした交通安全啓発活動、挨拶活動、PTAと合同の交通安全活動も実施している。来年度以降もこの取り組みをしていきたい。
- ・地域貢献ボランティア活動として定期考査終了時に、清掃活動を実施している。
- ・課題としては、部活や生徒会の生徒は挨拶の声が出ているが、その他の生徒は声が小さく元気がないと言われる。教員全体で声掛けをすることを引き続き実施する。
- ・いじめについて、いじめ防止対策委員会も実施している。冷やかし、からかい、SNSでの事案もあるが、早期の対応と指導により重大事案やトラブルにはなっていない。
- ・発達障害への支援にも力を入れ、スクールカウンセラーと連携して対応していきたい。組織的対応を心がけていきたい。
- ・反省と来年度への展望として、生徒は落ち着いているがその反面挨拶ができない。
- ・挨拶について、生徒に自己評価をする取り組みをしてきた。
- ・生徒の自己有用感を持たせ喜びをもたせ、職業教育をしていきたい。

○特活部

- ・地域貢献ボランティア活動を、100 名を超えるメンバーで 3 回、清掃作業実施した。
- ・可茂地区生徒交流会への参加し生徒会の生徒の成長の姿が見られた。
- ・体育大会については検討をしながら進めている。
- ・可児工祭については、PTAの皆さんの協力終えた。

- ・生徒会の役員がそろわない状況である。
- ・コートジボワールに、卒業生がいなくなった靴を送っている。
- ・部活動では、ホッケー部が 9 年ぶりに全国大会に出場した。電気システム部についても輝かしい成果を残している。
- ・各部の輝かしい成果を体育館東側に垂れ幕を作成して P R をしている。

○進路指導部

- ・今年度の 3 年生の進路状況については、ほぼ全生徒について確定しており 7 割が就職、3 割が進学で昨年と割合を変わない。
- ・求人は、企業数 1152 社、求人件数 1765 件、求人人数 1905 名で 14.3 倍になり、昨年より 4 割ほど増えた。就職者の地域別割合は、県内 84 名県外 58 名と例年と変わらない。可児市が 28 名、美濃加茂市が 9 名など近郊の企業にお世話になっている。自宅から通う生徒が多い。
- ・進学は、指定校推薦がほとんどで愛知県の大学に進むことが多い。
- ・可児市内企業からの本校生徒を切望してみえ、それに応える生徒を送り出していきたい。

○工業部

- ・地域に根差した工業高校として技術・技能を身につけ、地元貢献できる人材育成を行うことに取り組んできた。
- ・地域・企業・大学・東濃高校との連携積極的に行っている。
- ・技能検定等の取り組みも積極的に行っている。
- ・ものづくりコンテストにおいても、東海大会に出場し、県大会で 8 部門中 4 分野において優勝をしている。

(3) 校内見学と授業参観の感想

- ・工業高校らしさがよくわかり、成果も上がっておりうれしく思う。
- ・英語の授業を見て、学習環境もよく、態度も服装もよくまじめに取り組んでいてよかった。
- ・作る喜びを非常に指導されている。作るということはいかにうまくいかなくてもそれなりに勉強になる。うまくいかないほうがよい授業になるまではないかと思えます。
- ・マイコンカー好きな生徒が集まって、熱中しやっている成果が結果に表れていると思う。想像しているレベル以上のことをしていることを見てびっくりした。日頃の授業の基礎があつてさらに学習した結果であると思う。
- ・日頃の授業も非常に高いレベルのことをやっているのではないかと想像できる。ついていけない生徒がいるのではないかと。
→学力の差は大きいと、少人数授業や分割授業を実施している。
不登校はどうか、
→高い志をもって入学したが、思いと違っていたため不登校となり進路変更をする生徒もいます。
- ・体験してきたことがうれしかった。
- ・実習など身をもって体験できることがこれから社会に出てく上での糧になり大事なところではないかと思えます。
- ・実践でいろいろやっていることは、今後社会でつらいことがあつても、高校で躓いて先生方の指導で克服した経験を生かしていくことができ、社会に出てから延びるのではないかと。将来が楽しみです。
- ・積極的にまじめに授業に参加している。
- ・ものづくり視点で学校全体が動いている指導で心強いと感じた。
- ・こだわって作品を作る姿勢は、教えられてできるものではない。伝統あつてこそ伝わっ

ていくものである。今後も精神的な人と人とのつながりを教えることを大事にしていていただきたい。

(4) 来年度に向けた本校に期待する人物像とは

- ・考える力をつける指導を行い、画一的な指導をしないことを願いたい。それは、へこんだ時、考える力があればどうするれば良いかが考えられるので、考えられる力をつけて欲しい。
- ・仲間とうまくやれる人を育てて欲しい。
- ・ものづくりをとおしてコミュニケーション力を身につける指導をお願いしたい。
- ・ものづくりにもっと力を入れて、基礎的な能力の育成と定着させ、その上に自分で考えて新しいものを生み出すような前向きな姿勢をより一層充実強化していただきたい。
- ・子どもに寄り添って、分からないことは教え、考える力をつけるためには、自分で考え時間を設けてあげることが大事である。
- ・社会人として大切なことは、あいさつであるが、世の中が変わり知らない人には挨拶はしてはダメと小学校ぐらいに習っているので、挨拶を強要することと見知らぬ人にあいさつをしたらダメとは、大きな違いがあり、挨拶をしなさいという指導することが難しいが、社会に出たら挨拶をすることが基本となるので挨拶ができる子どもに育てて欲しいので徹底してほしい。
- ・アクティブラーニングを取り入れた授業は、子たちがあきない授業であり、実践とかコミュニケーションつける授業をやっていくと自然と身につくとおもうので、苦手な数学などで実施すれば子どもたちが楽しく授業を受けることができると思いました。
- ・7割が就職するとのことですので、社会に役に立つ人たちが育つ場になるように、学力だけでなく人間力も養うことも大切だと感じる。
- ・人間力を養うとよいのではないか。

(5) お礼の言葉

本日は貴重な意見を賜りましてありがとうございました。今後の学校運営に生かしていきたい。先日、建設工学科の授業で企業の社長さんが来校され建設業の魅力を紹介する時間を作っていただきその中で新入社員の話も聞くことができた。生徒からは「就職して一番大変なことは」と質問があり、新入社員の方からは「言葉遣いを覚えることが大変でした。」と答えた。具体的には、電話の取り方、上司に対する言葉遣いに対して大変であったということでした。

本校の生徒は、仕事の事で言われたことは理解してやることができるが、次何をすればいいかわからない、思いつかないので同僚や先輩に指導を仰ぐ勇気をつけなければならないことを分析していた。

すぐに社会人となる本校生徒には、いろいろな体験を通してそのような力を育てることが大切ではないかと考え、来年度の学校目標に反映していきたい。また、今後とも期待される可児工業高校としてあり続けたいと思いますので、いつでも結構ですのでご質問やご要望等学校にお寄せいただくとありがたいです。本当にありがとうございました。

来年度

- 大杉 守平 様 中恵土自治会連合会会長
- 今井 様 元 P T A 役員
- 河村 共久 様 下恵土自治連合会会長
- 佐合 英巳 様 元 P T A 役員
- 若尾 真理 様 可児市立図書館長